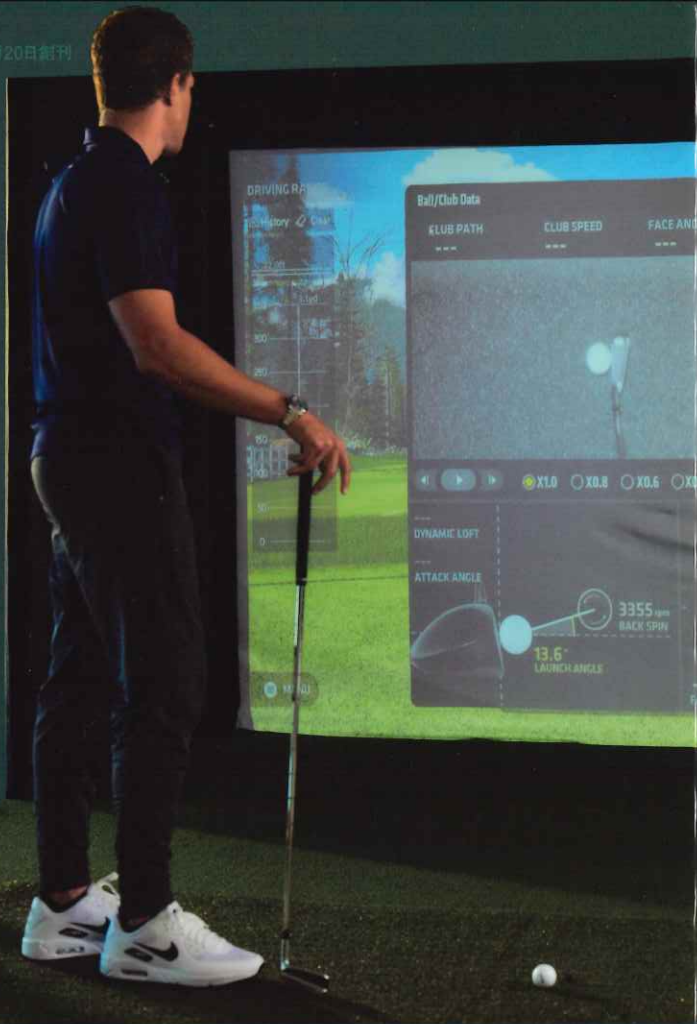


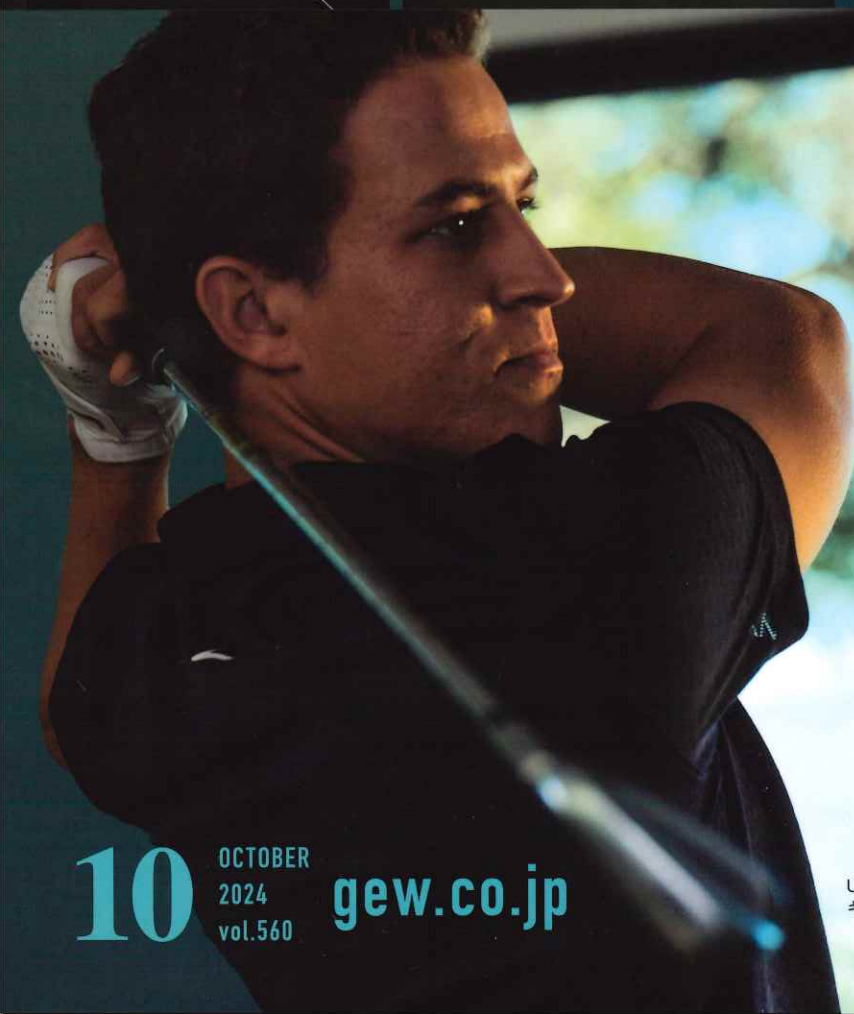
ゴルフ市場の変革を目指す  
リーダーズマガジン

# キュー GEW

「酷暑とゴルフ」を総点検  
来夏に向けての課題と対策



Golf Economic World



10 OCTOBER  
2024  
vol.560

gew.co.jp

UNEEKORアンバサダー  
キャメロン・チャンプ

アンダーハンデ戦で様々なプレースタイル、上級者も初心者も一緒に

今回ゴルフ・ジニアス・ソフトウェア社（GGS）のトーナメント・マネジメント・システム（TMS）の体験に協力してくれたのは、鹿沼72カントリークラブの35歳以下の会員「U35」のメンバー16人が参加したプライベートコンペ。



外園悠貴さん



澤井啓吾さん



横田雄人さん

20歳代と30歳代の35歳以下で構成される「U35」は、現在1300人以上を数え、鹿沼72CC主催のコンペや、プライベートで知り合った若いゴルファー同士がリーズナブルなゴルフ場を探して「U35」に入会するケースが多い。

アンケートに答えてくれた外園悠貴さんと澤井啓吾さんは同じ神奈川県在住だが、ゴルフで出会い、ゴルフの楽しみ方、求める「コスバ」「タイバ」に共通点があった、ゴルフ友達になったという。

「乗合車でコスバの良いゴルフ場の北限が鹿沼72CCなんですよ」

と、これまでの話だけだと、リーズナブルなゴルフ場を求めて彷徨う若いエンジョイゴルファーと思いきや、

「私のラウンドする組は男性3名がハンデ9です。J・s y sも登録しています」

一昔前まで、ハンデ取得者は、所属するゴルフ場の倶楽部選手権や関東アマチュア選手権での上位を目指す競技ゴルフアというイメージだった。それが、彼らはゴルフ、そしてスコアに真摯に向き合いながら、堅苦しくないスタイルでゴルフを楽しむエンジョイゴルファー。そのような競技ゴルファーとエンジョイゴルファーの両面を持つ彼らにとって、TMSはどのように映るのだろうか？

ライブで途中経過が分かる「便利だし楽しいですね」

まず、TMSをアンダーハンデ戦で使うには、各プレーヤーのハンデが必要で、難しいホールから順にハンデが振り分けられることから始まる。その上で、今回

はひとつのラウンドで「グロスストロークプレー」のみならずアンダーハンデ戦での「ストロークプレー」「マッチプレー」「スキんズ」を同時集計することにした。

このTMSのひとつの特徴は、各競技方法それぞれの途中経過がWEBサイトまたはアプリを介してリアルタイムで閲覧できることだろう。しかし、初めての体験で戸惑いもあり、

「ハンデは取得していても、プレーする各ホールに設けられたハンデと自分と対戦相手のハンデがどう割り振られるのかを理解しないといけません。ハンディキャップシステム自体を理解することがまず大前提だと思えます」――。

日本のハンデに対する理解やストロークプレー重視の現状を突いた鋭い指摘だ。日本のゴルフ人口は800万人といわれ、そのうちハンデ取得者は80万人、ハンデを更新・活用してプレーしているのは30万人といわれている。競技志向ゴルファーの多くは「グロスストロークプレー」、倶楽部の月例参加者はハンデを利用したアンダーハンデ戦の「ストロークプレー」を楽しんでいるが、これもストロークプレーのみ。どちらも「多様なプレースタイル」を楽しんでいるとは言えないのが現状だ。

ちなみに今回TMSで「グロスストロ



ークプレー」、アンダーハンデ戦の「ストロークプレー」「マッチプレー」「スキんズ」の集計に協力してくれたゴルファーのほとんどが、「新ベリア」「グロス」でのコンペ参加経験があり、男性3人のうち1人が「マッチプレー」「スクランブル」「ダブルスグロス」の経験があった。そして、このライブ機能は家族や友人、ゴルフ仲間も見ることができ、

「同じゴルフサークルの仲間がプレーしている状況も知りたいし、ゴルフ仲間にも自分の状況を知ってもらいたい。レベルアップしていくうえで、刺激になると思えます」

「運」から「狙う」へは楽しい、競技方法の多様性に価値大

プレー後、TMSで4つの「グロスストロークプレー」、アンダーハンデ戦の「ストロークプレー」「マッチプレー」「スキんズ」の結果を見た横田雄人さんは、「いつもは『新ベリア』なので、順位は『運』によって決まる印象ですが、様々な競技があって、その順位がそれぞれあるから、このホールは『マッチプレー』で勝てそう！」など、狙っていきますね

ハンデ、集計システム、競技方法への理解が、楽しさの度合いを左右することが分かったが、今回はデモンストレーションに協力してもらったため、システム利用料は無料。TMSの先進国である米国では、ゴルフ場がTMSをサブスクで年間契約。競技やイベント

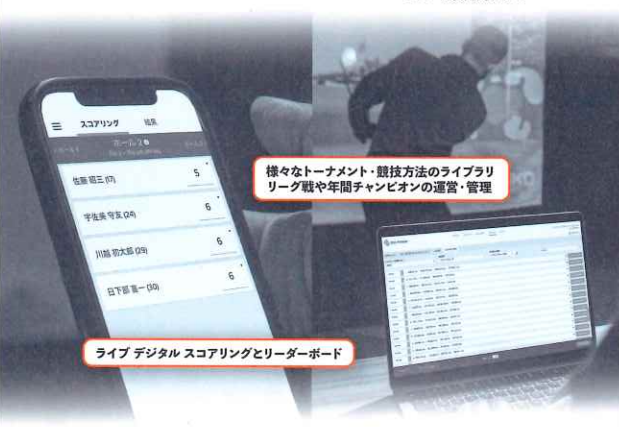
に手間がかからなくなり、GGSによると、

Golf Genius.

The New Way to Play

ゴルフをより魅力的に・より楽しく!

多彩な競技フォーマット  
インタラクティブなプレーヤー体験  
運営作業の効率化・省力化  
コンペ集客力アップ



様々なトーナメント・競技方法のライブラリー  
リーグ戦や年間チャンピオンの運営・管理

ライブ デジタル スコアリングとリーダーボード

ゴルフジニアスは世界で最も利用されている競技・コンペ運営システム  
61ヶ国、10,000以上のゴルフ場、ゴルフ連盟、ツアー団体が日々活用

国内では日本プロゴルフ協会、日本ゴルフ協会の競技運営で活躍中



GOLFGENIUSに関する詳細情報・リクエストはこちらへ  
golfgenius@tcraft.co.jp | hikaru@golfgenius.com



「競技やイベントの開催自体が大きく増えています。メンバーの満足度を増すのみならず、各イベントへの参加料収入も増し、ゴルフ場の収益体質を改善している」という。システム利用料について澤井啓吾さんは、

「参加費にインクルードしておけば問題ないと思いますよ。それよりもハンデが前提となった多様な競技方法なので、ハンデを取得することがまずは肝心になりますね。ただ身近なグループ内であれば、プライベートハンデを使用して開催することも可能なんですよ。ハンデが大きいゴルファーにも楽しみが増えるのは良いことですよ」

4人中、男性3名がハンディキャップ9。だからこそ、彼らの意見は貴重。TMSを活用したゴルフの楽しみ方、プレ

ーの多様性を広げるには、GGSはもちろん、ゴルフ場やゴルファーが協力してアイデアを出していくことが必要だ。

「SNSのゴルフサークルに提案  
「新ペリアより面白い」

今回のデモンストレーションに参加してくれた外園悠貴さんが、興味深いアイデアを提案してくれた。

「実はここにいる4人はもともと知り合いではなく、SNSのゴルフサークルの募集で知り合ったんです。そこで仲良くなつて、プライベートでプレーするようになりました。SNS、特にインスタには100人規模のゴルフサークルが沢山あります。その幹事さんに『TMS』を提案すると、面白がつて採用してくれると思いますよ」



プレー志向はエンジョイゴルファー。レベル的にはピンからキリまで、スコアなら70台から130叩くゴルファーでも、ワイワイガヤガヤ楽しむゴルファーなら、『新ペリア』より面白いと思いますよ。それぞれのレベルでスコア以外で目指すところが他にもできるので、楽しいラウンドになるはずですよ」

GGインターナショナル・マネージング・ダイレクターのクレグ・ヒッグス氏は、

「私自身、前半の9ホールで大叩きするとエンジョイできない。そのような時でも、TMSは多様なゴルフの楽しみ方を提供してくれますし、ゴルフ場は手間をかけずにプレーヤーの満足度を向上させながら収益化に繋がられます。なにより、若年層ゴルファーへゴルフの新たな価値を提供しているんですよ」

今回、デモンストレーションに協力してくれた鹿沼72CCの湯澤知支配人は、『鹿沼72の「U35」会員には、大規模なコ

ンペを開催するリーダー的存在のゴルファーが何名かいます。『TMS』を利用して、その方たちに多様なゴルフの楽しみ方を提案していただくことは、今後の課題になつてくると思います」

その時に重要なのが、『ゴルフ場では「U35」の企画を、35歳以上のスタッフが考えている。だから、『U35の月例競技』を作っても参加者が少ない。そういうことだと思いませんか」

今回、TMSを体験したゴルファーのほとんどが、極端に言えば『グロスストロークプレー』、アンダーハンデ戦の『ネット』『新ペリア』以外の競技方法に触れたことがない。ただ、若いゴルファーがSNSでゴルフ仲間を見つめる時代に変化しているいま、ゴルフ場がゴルファーに提案するゴルフの楽しみ方も変わっていくことが望まれる。TMSは、その多様な楽しみ方に対応して、ゴルフの様々な楽しみ方を提供できるシステムであることは間違いない。